
青い炎

kip

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青い炎

【コード】

N8180B

【作者名】

kip

【あらすじ】

少年のサクセス・バトルストーリー。社会や親や学校や教師をなぎ倒せ！！次はお前を倒す！！

僕は中三の春休みに、初めて歯科医院に行くことにした。中学校に入ってからだろうか、僕が歯を磨かなくなったのは。歯を磨くのが面倒だったのでではない。それは歯科医である父と、僕の運命に対するせめてもの抵抗だったのだ。当然何本もの歯が虫歯になった。虫歯の痛みは夕立のように何の予告もなしに僕を襲い、暫くたてばやむ。その痛みは日に日に強烈さを増していき、最初は痛みを我慢するように努めていたが、虫歯が痛むたびに集中が切れてしまうのに耐えかねていたし、氷砂糖を食べていたら虫歯がかけてしまったので、歯科医院に行くことにした。

その歯科医院は、新しく出来たショッピングセンターに客を奪われ、廃れてしまった商店街の端にあった。

その建物は、一階建てで小さく、健康な歯を連想させる明るい白に包まれており、明らかにその土地とはミスマッチな様相を呈していた。僕はドアを引き、建物の中に入った。

深い緑色のスリッパを履き、受付で保険証を出し、診察カードを作ってもらった。

狭い待合室には誰もおらず、とても静かだった。聞こえるのは、僕の心臓の鼓動だけだった。

四、五分して僕の名前が呼ばれた。僕は治療室に入り、大きな椅子に掛けた。治療室には六十歳ぐらいの、細い目をした歯科医と、若い女の助手がいた。

「こんにちは。え〜っと、田辺くん、どこの歯が欠けたんだだけ？」

「右上の奥歯です。」僕から見て、と付け足そうとしたが、面倒だからやめた。ウィーンという機械音と共に、椅子がゆっくり倒れ

た。

「それじゃあ口を大きく開いて。」僕は口を大きく開けた。医者は口の中を照明で照らし、先に鏡の着いた細い棒を口に突っ込んだ。僕は照明のあまりのまぶしさに、目を閉じた。

「うわゝひどいなゝ君ちゃんと毎日歯を磨いてないでしょ。歯石だらけだよ。」

棒が口の中を左右に移動する。歯科医はアルファベットや数字をぶつぶつ呟き、助手がそれをメモする音が聞こえた。

歯科医がため息をついた。棒が口の中から出て、照明が消え、椅子がゆっくり引かれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8180b/>

青い炎

2010年11月19日08時16分発行